学校番号	303

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	日本史探究	単位数	３単位	年次	３年次
使用教科書	『詳説日本史』　（山川出版社）						
副教材等	『新詳日本史』　（浜島書店）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・現在の日本という国を本当の意味で理解するためには過去を知る必要がある。グローバル化された世界で自国のルーツや他国からの日本の印象を知る、また自身のアイデンティティとしての日本を知る手助けとしてこの授業を進めたい。そのためには歴史的事象を多面的・多角的に考察する必要がある。それぞれの時代を比較し、歴史的事象に関して「なぜ」という視点で勉強に臨むことで日本史を学んでほしい。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】我が国の文化と伝統を、歴史の展開の上で理解し、諸資料に親しんで読解する能力を身に着ける。
【思考力、判断力、表現力等】諸資料を多面的・多角的な視点から、歴史の展開と結び付け歴史的観点から考察し、根拠のある自身の意見を述べることができる。
【学びに向かう力、人間性等】歴史の展開の上で、課題を設定し、追究・解決する活動を通して，多面的・多角的な視野に立ち，グローバル化する国際社会に主体的に参加することができる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について，国際環境や地理的条件と関連づけながら総合的にとらえて理解している。また、歴史的事象に関する史料を読み取り、自身で課題を設定し、我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、自身の課題に沿った発表をする技能を身につけるようにする。ｖ	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目させる。史料や地図、ICTを活用させ多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養う。また、生徒自身が多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、国際社会に参画する者として他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	原始・古代から中世、武家政権の成立まで	・文化の始まり ・農耕社会の成立 ・古墳文化の展開 ・飛鳥の朝廷 ・律令国家への道 ・平城京の時代 ・律令国家の変容	a：律令国家が成立する前、ヤマト王朝と蘇我氏の関係性や政治運営について、推古天皇・厩戸王・蘇我馬子などを中心に、中国大陸・朝鮮半島との関係なども踏まえて理解している。 b：中国の歴史書や日本列島内外の金石文、日本の古墳や朝鮮・中国王朝の墓の副葬品などを学び、日本が中国大陸・朝鮮半島との交渉がもつ意味や、小国の形成過程について多面的・多角的に考察し、表現している。 c：日本列島における小国およびヤマト政権と中国・朝鮮半島などとの交流について考察することを通じて、古代の対外交流の実態や日本列島の勢力を明らかにしようとしている。	定期考査 発問評価	ワークシート 定期考査	ワークシート
		・摂関政治 ・地方政治の展開と武士 ・院政の始まり ・院政と平氏政権 ・鎌倉幕府の成立 ・武士の社会 ・モンゴル襲来と幕府の衰退	a：承久の乱が幕府と朝廷との関係に与えた影響について、諸資料から適切に情報を読み取り、理解している。 b：幕府と朝廷の二元的支配構造の特色について、諸資料から得られた情報をもとに、それぞれの支配が及ぶ地域や権力について根拠を明確にして自分なりにまとめることができる。 c：古代との比較などを通して、中世では同じ時期に政治的な力をもつ勢力が複数存在していたことなど、中世の特色を探究し、武家政権が成立するまでの過程を明らかにしようとしている。定期考査 発問評価	ワークシート 定期考査	発表	ワークシート レポート

2学期	中世、武家社会の成長から、近世・近代国家の成立	・室町幕府の成立 ・幕府の衰退と庶民の台頭 ・戦国大名の登場 ・織豊政権 ・幕藩体制の成立 ・幕藩社会の構造	a：徳川氏による政治の確立を図るために制定された様々な法や制度について、幕藩体制下の支配体制や封建的身分秩序の形成に関する諸資料から適切に情報を読み取り、江戸時代の社会の構造を理解している。 b：南北朝の動乱などにみられる地域の政治・経済の基盤をめぐる対立や武家と朝廷の関係性、東アジアの国際情勢の変化と日本との関係や影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 c：15世紀から16世紀にかけて争乱が多発した理由、それぞれの大名の領国経営法や地域的特徴を考察することで戦国時代を中心とする歴史の展開に関わる課題を主体的に追究しようとしている。	定期考査 発問評価	ワークシート 定期考査	ワークシート
		・幕政の安定 ・幕政の改革・幕府の衰退と近代への道 ・開国と幕末の動乱 ・幕府の滅亡と新政府の発足 ・明治維新と富国強兵 ・立憲国家の成立	a：明治政府による中央集権化の諸政策と士族反乱の終焉、欧米・アジア諸地域との国際関係、文明開化の風潮について、諸資料から情報を読み取って理解している。 b：日本が直面していた国内外における諸課題を踏まえ、政治や経済などの諸側面の変化などを佐幕派・尊王攘夷派・外国人・公家など多面的・多角的な視点から考察し、表現している。 c：幕藩体制が安定していく中で、江戸幕府の諸政策がもたらした人々の暮らしへの影響について、主体的に追究しようとしている。	定期考査	発表 ワークシート	ワークシート レポート

3学期	近代国家の展開から現代の日本・世界	・日清・日露戦争と国際関係 ・第一次世界大戦と日本 ・ワシントン体制 ・近代産業の発展 ・恐慌の時代 ・軍部の台頭 ・第二次世界大戦 ・占領と改革 ・冷戦の開始と講和 ・55 年体制 ・経済復興から高度経済成長へ ・経済大国への道 ・冷戦の終結と日本社会の変容	a: ヴェルサイユ体制からワシントン体制に至る経過や中国・朝鮮における民族運動の高揚に着目し、国内で様々な社会運動が起こった背景と政党政治の成立について理解している。 b: ワシントン体制下の協調外交が、中国における民族運動の進展や日本の経済の動向・日本の軍の動向などにより国際関係の緊張が高まったことについて考察し、根拠を明確にして表現している。 c: 日清・日露、第一次世界大戦など戦争を経験したことによって、戦争が日本の近代化の過程の中でもった意味を考察し、主体的に追究しようとしている。	定期考査	発表 ワークシート	ワークシート レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度